

いわき農林事務所ニュース 2005年10月号

活動状況

○いわき地方大豆生産現地検討会を開催

8月25日、いわき地方大豆生産現地検討会を三和(みわ)町の中寺ライスセンターにおいて開催しました。当日は、生産者をはじめ、関係機関・団体から約30人が出席し、今後の栽培管理の留意点や助成制度、大豆の流通情勢等について検討や意見交換が行われました。

いわき市内では、三和(みわ)町中寺地区、渡戸地区、四倉町白岩地区において、水田の団地による大豆生産が約30haで取り組まれており、本年の大豆の生育状況は、7月の降雨により生育が遅れるなどの影響がありましたが、その後の適切な追肥等の管理により順調に回復しています。

検討会では、特に大豆の流通情勢について活発な意見交換が行われ、食品製造業者からは「高品質なものとおわせ、ある程度の品質で価格の低いものも需要が多い」など要望があり、生産者からも今後の大豆生産に活かしていきたいとの声がありました。



大豆の生育状況の確認

○「環境にやさしい米(こめ)づくり」の第2回現地検討会を開催

9月8日、環境にやさしい米(こめ)づくり推進会議の第2回現地検討会が、四倉町のJAいわき市カンントリーエレベーターで開催されました。

JAいわき市は、本年度から特別栽培米(まい)への取り組みを本格的に開始し、約20haで栽培されており、順調に生育しています。

初めに、先進事例としてJAそうま営農経済部浜田早苗さんから、2,800人以上のエコファーマーがエコ米(まい)の栽培を行っている同JAの取り組みについて紹介していただきました。

JAそうまでは、平成16年の集荷数量の約半分がエコ米(まい)となっていますが、稲作部会の新たな設立や、展示ほの設置、検討会、集落座談会などを通して、「これからの米(こめ)市場においては、エコ栽培は最低限必要である」と繰り返し説明して生産者の理解を得ることができたなどの推進上の苦労話をお話いただきました。

このあと、17年産米(こめ)の生育状況などの検討会と現地視察が行われました。



特別栽培米の取り組みを研修

○林業教室とグリーンフォレスター養成講座が開講されました。

いわき地方における平成17年度の林業教室（基礎、実践講座）とグリーンフォレスター養成講座（以下養成講座）が開講されました。9月1日には、林業教室と養成講座合同の開講式がいわき市常磐藤原町「湯の岳山荘」で行われました。出席者は9名で、各々3名の重複受講者を含み、林業教室が8名、養成講座が4名でした。

開講式では、研修に関するオリエンテーションの後、地域林業セミナーとして、県指導林家の緑川平壽（へいじゅ）さんから「私の林業経営」と題する講話が行われました。その後、林業教室では森林・林業に関する基礎知識について、また養成講座では森林ボランティア活動の企画立案及びインタープリテーション※とは何かなどについて、それぞれ説明が行われました。

9月8日には、第1回の林業教室基礎講座が行われ、いわきプレカット協同組合（常磐藤原町）、遠野興産株式会社（遠野町）、協同組合いわき材加工センター（勿来(なこそ)町）の3工場を見学しました。研修生は、初めて見る各工場の木材加工技術や生産工程に驚き、興味深い様子で説明を受けていました。

今後、林業教室では高性能林業機械やきのこ栽培の現地研修を、養成講座では安全対策に関する講習を予定しています。

※インタープリテーション・・・自然・文化・歴史（遺産）をわかりやすく人々に伝えること。自然について知識そのものを伝えるだけでなく、その裏側にある“メッセージ”を伝える行為、あるいはその技能。

○福島県林業教室

林業後継者などを対象に、森林・林業に関する総合的な知識などを養い、指導的林業後継者や地域における林業生産活動のリーダーの養成を目的に行う教室

○福島県グリーンフォレスター養成講座

県民参加による森林づくり運動の促進を図るため、森林整備活動や森林環境教育を通して、林業の重要性や技術などを広く県民に伝えるボランティアによる指導者（＝福島県グリーンフォレスター）の養成を目的に実施する講座



緑川平壽さんの講話を聞く研修生



いわき材加工センターを見学

○水稻エコファーマーますます増加！

9月8日、エコファーマー認定証交付式が、県いわき合同庁舎で行われ、新たに9名の方々がエコファーマーに認定されました。

今回は9名全てが水稻での認定であり、環境にやさしい売れる米(こめ)づくりの輪がますます広がっています。特に、11haで水稻の作付けをする農家など、稲作を経営の中心とする大規模な農家や生産組織が多く含まれ、1人あたりの認定面積は約4haに達しています。

今回の認定で、いわき地方のエコファーマーは107人（作物別延べ125人）となり、最初は点に過ぎなかったエコファーマーへの取り組みが徐々に拡がっています。次回の認定は10月の予定です。



いわき地方のエコファーマー認定人数
(年度別累積人数、
平成17年9月現在
伸び率は対前年比)

	認定人数	伸び率
平成15年度まで	23	—
平成16年度	74	322%
平成17年度	107	145%

※主な認定者の横顔

○堆肥を活用した三和(みわ)町下三坂地区の環境にやさしい米(こめ)づくり

下三坂地区は、水稲と肉用牛の複合経営農家が多く、牛(ぎゅう)ふん堆肥を活用した土づくりが盛んです。地域の水稲約30haの乾燥調製作業を行っている下三坂水稲作業受託組合では組合員の多くが牛を飼っており、牛ふん堆肥を活用して3名がエコファーマーの認定を受けました。10月には、さらに8名が申請を予定しており、11名の組合員全員がエコファーマーとなることを目指し、一丸となって環境にやさしい売れる米(こめ)づくりに取り組んでいます。また、組合を中心とした集落ぐるみの環境にやさしい米(こめ)づくりは、集落営農につながることを期待されます。

○経営体育成基盤整備事業 大野第一地区が起工

9月13日、経営体育成基盤整備事業 大野第一地区の安全祈願祭と起工式がいわき市四倉町駒込で行われました。

大野第一地区は平成16年度に事業採択され、受益面積39ha、事業工期6年間、総事業費5億4000万円です。今年度からは現場整備工事に着手することとなりました。

安全祈願祭では、農林事務所長、いわき市長、千軒平溜池土地改良区理事長、大野第一地区ほ場整備組合長らが参入りし、関係者が玉串をささげて、工事の安全を祈願しました。

また、駒込生活改善センターに場所を移して行われた起工式では、大野第一地区の人々から「念願叶(かな)って、ようやく着工できた。」「田んぼが良くなる。」という喜びの声が上がっていました。

今後は、適切な設計・施工に努め、工事を安全に進めてまいります。



工事の安全を祈る関係者

トピックス

○田舎暮らし体験で、農山村の活性化を！
～出先機関連携事業 「プレターン」モデル事業を実施

いわき市の中山間地域では、市内の平坦部に比べて高齢化や人口の減少が進んでいます。一方、都会では、自然を求め田舎で休暇を過ごしたい、田舎暮らしをしたい、という人が増えています。

そこで、都会の人々に、いわき地方の中山間地域で地元住民の生活に直接触れることができる宿泊体験等を通して「ターン」を促進するため、「プレターン」モデル事業を実施しました。本事業は、いわき地方の県出先機関（振興局、農林、建設、教育の各事務所）と地元の地域づくり団体が協力し、実行委員会を結成して行いました。

モデル地区となったのは、田人(たびと)町貝泊(どまり)地区と小川町戸渡地区で、それぞれ「貝泊(どまり)コイコイ倶楽部」「戸渡リターンプロジェクト」という地元住民による地域づくり団体が活発に活動しています。

貝泊(どまり)地区では7月30・31日に行われ、首都圏からの参加者を中心に若い女性、子供連れ、中高年夫婦など、9組19人が参加しました。農家に宿泊しながら、農作業体験、炭焼き体験などに取り組んだほか、すでに定住した6人の方の、田舎ぐらしの良い点や注意点など具体的な体験談を聞きました。その結果、以前から地元の方々との交流を深めていた2組の家族が本事業をきっかけに定住を決意しました。

戸渡地区では8月27・28日に行われ、市内や郡山市、神奈川県などからの小学生とその親など9組22名が参加しました。旧戸渡分校に宿泊し、森林観察、木登りなどを体験しました。参加者は田舎暮らしを満喫した様子で、今後の定住促進にはずみがつくものと期待しています。



農業を体験する参加者（貝泊(どまり)地区）



ツリーイングの説明を聞く子供たち
(戸渡地区)

○渡部小の「田んぼの学校」その6 生きもの調査と大運動会を実施

渡部小の「田んぼの学校」その6 生きもの調査と大運動会を実施 8月22日、いわき市渡辺町の渡辺小学校で今年6回目の環境教育事業「田んぼの学校」が開催され、「生きもの調査と大運動会」を行いました。今回は小学校が夏休み中のため、5年生全員は参加できませんでしたが、代わりに2年生や6年生が飛び入りで参加してくれました。

はじめに「生きもの調査」を行い、田んぼにクモとカエルがどの位生息しているか、種類と個体数を調べました(クモは稲20株あたり、カエルは一区画全体)。

稲の害虫を退治してくれるクモについては、巣を大きく張った体長5cm大のオニグモも見りましたが、児童たちは怖がる様子もなく調査していました。また、カエルについては、児童たちが賑やかに探したために逃げてしまったのか、結局2匹しか確認できませんでした。

次に、児童たちの企画による「大運動会」を行いました。田んぼの学校では、「学び」と「遊び」を目的としており、男子児童チーム・女子児童チーム・大人チームに分かれていろいろな種目を楽しみました。

ドッジボールでは、ある男子児童が、相手がキャッチできないよう、ボールに泥をくっつけて投げる裏技を出しましたが、効果無く男子児童チームは最下位となってしまいました。

リレー競争では、田んぼのぬかるみにすっかり慣れたようで、校庭を走るようにスイスイと競争していました。最後のサッカーの試合では、ドロの中に埋まってムツゴロウのようになってしまった男子児童もいましたが、その体力温存策の甲斐あってか、男子児童チームが勝利しました。

ほ場では、黄金色になった稲穂が頭を垂れ、後は稲刈りを待つばかりとなっています！



クモを調査する児童たち



白熱ドッジボール

○親子で野菜収穫体験と料理教室！ ～第3回いわきの味を楽しむ会

9月17日、第3回いわきの味を楽しむ会を小川町のほ場と中央台公民館で、いわき市内在住の親子13組3名の参加を得て開催しました。

「いわきの味を楽しむ会」は、平成17年度「豊かな食生活推進事業」として、「食」や「農産物」に対する関心を高め、子供たちを含めた県民の皆さんの健全な食生活を推進するとともに、身近な農産物と生産者について理解を深めることを目的として行われ、いわき農業青年クラブ等の協力を得て開催しました。

当日は天候にも恵まれ、小川町下小川の「草野グリーンファーム」と「ファーム白石」のほ場での収穫体験から始まりました。

「草野グリーンファーム」では、葉ネギの水耕栽培について草野さんから説明を受けた後、ビニールハウスに入って葉ネギを実際に収穫しましたが、参加者は初めて見る水耕栽培に感心していました。また、「ファーム白石」では、ゴボウとナスの収穫に挑戦しました。子供たちは収穫したゴボウが1メートル以上あるのに驚いた様子でした。

参加者は、収穫した葉ネギとゴボウ、ナスを中央台公民館に持ち帰り、自ら収穫した野菜を使って料理教室を行いました。

講師は昨年の第2回目に引き続き、うつくしま『食』『農』サポーターの遠藤功治氏と北尾博水氏にお願いしました。両氏は、レシピづくりからご協力いただきました。

メニューは、「豚のロースト ～ゴボウと長(なが)ネギ添え～」 「ナスと挽肉の重ね焼き」 「葉ネギのじゅうねん和え」 「梨といちじくのコンポート」の4品で、参加した子供たち

は、おぼつかない手つきながら、ゴボウや梨(なし)の皮をむいたり、じゅうねんをすり鉢ですったりして、楽しそうに料理に挑戦していました。保護者の皆さんも子供たちの包丁さばきに注意を払いながらも、素材を活かす講師の調理法を熱心に聴いていました。

調理後は、参加者全員で試食し、体験した内容を振り返りながら、講師の遠藤さん、北尾さん、調理を手伝った農業青年クラブの会員と楽しく談笑しました。参加者からは、「自分で収穫して、自分でつくった料理はとておいしかった」「普段できない収穫体験ができて、とても有意義だった」「素材の味を引き出す料理が覚えられた」など、大変満足した様子でした。



ごぼうを収穫する子どもたちと農業青年クラブ員



収穫した野菜を使って料理しました！

◀もどる

すすむ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]